

は か た い せ き ぐ ん 博多遺跡群を知ろう！

～地下鉄七隈線延伸工事の発掘調査～

1. 「博多遺跡群」ってどんな遺跡なの？

博多遺跡群は、博多湾岸に沿って形成された砂丘上に立地しています。遺跡の範囲は、大博通りをほぼ中心として、東側は御笠川、西側は博多川、北側は大博町・神屋町、南側は博多駅前一・二丁目あたりまでで、その規模は東西約 800m、南北約 1600m です(図 1)。

博多遺跡群の発見は今から約 40 年前の昭和 52 年にさかのぼり、その時も今回同様に市営地下鉄の建設工事に先立つ発掘調査が行われました。その調査では、中国産や朝鮮半島産の陶磁器が数多く出土し、博多が中世の国際貿易都市であったことが広く知られるきっかけとなりました。これまでの発掘調査件数はすでに 200 件を超え、古くは弥生時代に始まり、平安時代から室町時代にかけて国内有数の対外貿易拠点であったことが判明しています。その後も戦乱を乗り越えながら近世以降も商業都市として発展し続けています。なお、今回の発掘調査は、地下鉄七隈線延伸工事箇所の中間駅(仮称)部分を対象とした 203 次調査で、遺跡群の南西端に位置しています。

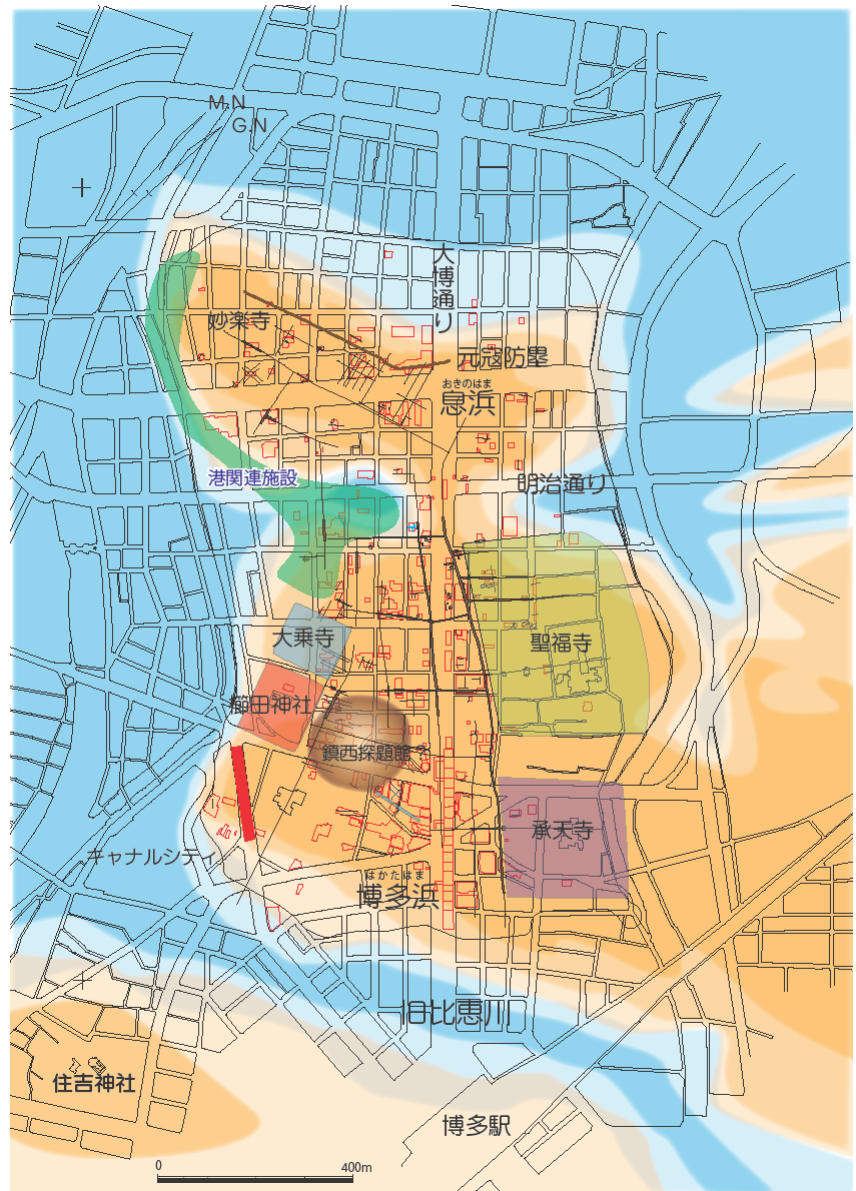


図 1) 今から約 700 年前の博多(福岡市博物館作成)

 ：第 203 次調査区

2. この発掘調査でどんなことがわかったの？

今回の発掘調査では、今から約 2000 年前の弥生時代から人々が生活していたことが明らかとなりました。主な成果を古い時代から順に紹介します。

弥生時代
(約 2000 年前)

今回の調査でみつかった最も古い時代の遺構^{いこう}です。地下約 2 m の砂丘上で甕棺墓^{かめかんぼ}や壺棺墓^{つぼかんぼ}など 10 数基からなる墓地を発見しました。使われた棺の大きさから大人と子どもが葬^{ほうむ}られていたことがわかります。また、弥生人の骨^{ほね}や歯^はが残っているものもあり、性別^{せいべつ}やおおよその年齢^{ねんれい}などを推定することもできます(写真 1・2)。



写真 1) 大人用の甕棺墓



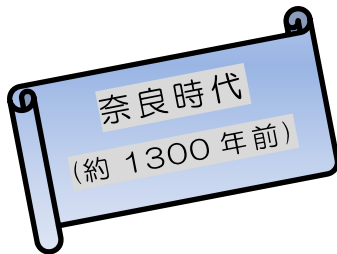
写真 2) 砂丘の上につくられた墓地

古墳時代
(約 1600 年前)

古墳時代では、竪穴住居^{たてあなじゅうきょ} (写真 3) からなるムラのあとを確認しました。住居は一辺 4 m 以上を測る方形の形態です。調査区が狭く全体が現れてはいませんが、4 本の柱で屋根を支え、中央には屋内^{おくない}炉^ろがあったと推測できます。また、出土遺物の中には畿内^{きない} (近畿^{きんき}地方)、山陰^{さんいん}地方等の土器があり、他地域との交流が行われていたことがうかがえます。このほかに埴輪^{はにわ}も出土しており、付近に古墳が存在する可能性があります。



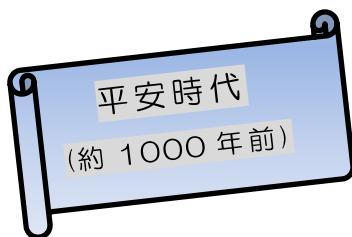
写真 3) 竪穴住居



井戸(写真4)やゴミ穴、柱穴などを確認しました。今回の調査区から北東側約300mでは、約100m四方の溝で囲まれた区画や掘立柱建物が発掘され、役人がいた施設や居宅があったことが推定されています。今回の調査では役人の帯を飾る青銅製の金具が出土しています。また少量ですが、長門や周防(山口県)で生産された緑釉陶器や中国産の越州窯系青磁が出土しており、今回の調査区でも同様の役人にかかわる施設があったことがうかがえます。



写真4) 井戸



平安時代のおわり頃には、井戸やゴミ穴、柱穴が急増します。これは博多遺跡群全体での様相と同様です。出土品には、中国産の白磁の碗、皿、四耳壺や施釉陶器の盤、壺のほか、国産の土師器(素焼き)の坏・皿、瓦器碗などが多数あり、まとめて捨てられているもの(写真5)が多く見られます。この時期は、外交との窓口であった鴻臚館が衰退し、対外貿易の拠点が博多に移った頃です。その後は中国商人も在住し、その財力を背景に発展を続け、中世日本最大の貿易都市「博多」が誕生します。なお、朝鮮半島産の高麗陶器も出土しています。また、今回の調査では、ガラス製の玉や容器等とともに坩堝(ガラスの原料を加熱して液体の状態にする器)が出土しており、付近にガラス工房があったと考えられます。商人だけではなく、手工業に従事する職人も住む都市であったことがわかります。



写真5) 平安時代のゴミ穴

鎌倉時代～戦国時代
(約 400～700 年前)

鎌倉時代の終わり頃と推定される直径約 5 m の大きな窪みから多数の土師器
 坏・皿とともに白磁や龍泉窯系青磁、施釉陶器、青銅製品、銅銭、鉄釘、碁石、ガ
 ラス製小玉、イルカの背骨等の獣骨が出土しました(写真 6)。中世の儀礼や宴会に
 使われた土師器は使い捨てされることが多く、鎌倉幕府がこの博多に鎮西探題を設
 置した頃、盛んに行われた宴の跡ではないかと推測されます。その後、この周辺は元弘
 3 年(1333 年)の鎮西探題襲撃の際の火災によって大きな被害を受け、16 世紀後半の
 戦国時代末まで畑地となっていたようで、それを裏付けるように、この時期の遺構や
 遺物はほとんど見ることはできません。



写真 6) 鎌倉時代の廃棄土坑

3. どんなモノが発見されたの？

これまでの調査で出土した遺物には、先に紹介したように数多くのものがあります。その種類は食器、道具、工具、装飾品、食べかすなどがあり、その素材も土製や石製、金属製など時代や用途によりさまざまです。本日、事務所で出土品を見学
 できますので、ぜひご覧ください。⇒展示は当日限りでした。ご了承ください。

その他これまでに記さなかったものを紹介します。



異形石器
(縄文時代早期
約 1 万年前)



青銅製の権(平安時代)
・竿秤の錘



墨書陶磁器
(平安時代)

・人名や数字、花押を
 高台内に墨で書いて
 います。所有者や数
 量を示すものと考え
 られます。



小型素文鏡(古墳時代)
・直径 2.1cm と極小

博多遺跡群第 203 次調査

現地説明会資料

発行日 平成 27 年 7 月 18 日

発行 福岡市経済観光文化局

埋蔵文化財調査課